

『現代若者研究』メルマガ版

【第6回:時代を牽引する若者とは(その2)】

2021年12月



『現代若者研究』メルマガ版の試み

ハイライフ研究所では昨年度まで、大学生～20代社会人を研究してきた。

公益財団法人ハイライフ研究所では、2019年度に大学生を対象に研究を行い、引き続き2020年度に20代社会人を対象に研究をおこなっています。その詳細は、2冊の報告書としてすでに公開しております。

しかし、私たちハイライフ研究所の若者に対する関心はまだまだ尽きることがありません。そこで、メルマガの形で研究を深めていくことにいたしました。メルマガ発信に際しては、以下を心がけてまいります。

そして、ハイライフ研究所ホームページにアーカイブしてまいります。

メルマガ版での試み その一

過去に発表した報告書で伝えきれていない部分を伝えていく。

メルマガ版での試み その二

若者に関して、新たに沸き起こる興味を紐解いていく。

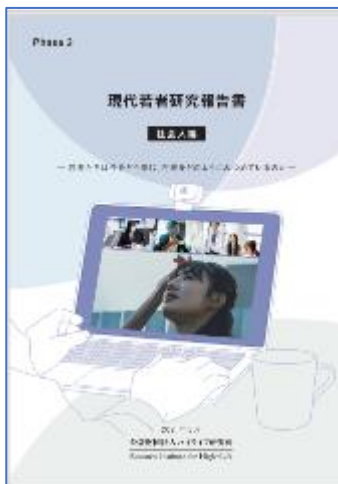
メルマガ版での試み その三

読みやすく、楽しく、面白く、伝えていく。

なお、内容にご興味をお持ちになった方は、是非とも報告書本体もご参照ください。

※[ハイライフ研究所ホームページ](#)にてご覧いただけます。

(下記報告書の表紙をクリックしていただくと、各報告書 pdf.にジャンプいたします)



第6回のテーマは、 時代を牽引する若者とは？(その2)

クラスター分析で、根底に同質の特性をもちながらも、
20代社会人がいくつかのタイプに分かれることが確認できた。

では、これからの時代を担うような若者とは
どのような人たちなのだろうか？

そこで、少し尖っている若者たち数人に
インタビューをおこなった。

※「尖っている」とはあくまでも私たちの感覚的なものです。

今回は、時代と向き合いながら生きる
4人の20代男性の姿をご紹介します。

※4人の皆さんそれぞれにランダムにお聞きしたお話を、ハイライフ研究所で
構成し、まとめております。

使用データ

【パーソナルインタビュー調査】

- 目的:これからの時代を牽引していくであろう若者像を捉え、
彼らのキーとなる構成要素を見つけ出す。
- 手法:オンラインでのパーソナルインタビュー調査 ※1ケースにつき1.5h~2.0h
- 対象者条件:20代~30代前半 男女
- 調査数: 男性5ケース 女性4ケース
- 実査時期:2021年9月

ケースA(男性28才)

■プロフィール

- ・神奈川県出身。
- ・大学院(修士課程)でバイオテクノロジーを学ぶ。
- ・エネルギー系企業に入社し、バイオマスを活用した商品づくりの仕組みを作ることにチャレンジしている。

✓ 周りの人が皆幸せになればいいと思う。足の引っ張り合いは自分の性に合わない。

世の中、市場経済は足の引っ張り合い。誰かが損をして儲けるという感覚が自分には合わない。周りの人が幸せになればいい、自分は生活に必要な分の給料を稼いで生活できればいいと考えています。小中学校のころからそう思っていました。それは親の影響ということではありません。

恵まれた環境で育ってきたので、ハングリー精神がないのだと思います。自分にはハングリー精神がありませんが、競争は必要だと思います。そうでないと向上がないからです。

父親と会社のあり方で議論になったことがあります。父親は、教科書どおりに会社は利潤を追求するものだと言い、自分は会社は世の中を良くするためという目的があって利潤を追求するのではないかと考えていました。

✓ 世の中のためになることは何かを問う。いきついたのが、CO2の問題を解決すること。

世の中のためになることを考えて、いきついたのがCO2の問題を解決すること。環境問題をクリアにしていけば、今の生活を維持しながら皆が幸せになれる。それで、CO2の問題解決に取り組もうと思ったのです。

その過程ではいろいろなインプットがありました。「不都合な真実」から受けたメッセージには影響を受けました。多分日常的に目にしているニュースや新聞からもインプットがあったと思います。

環境の為には人工光合成と言われており、CO2を減らすのは植物と考えられています。今でも一番の技術は植林と言われていています。それで、植物バイオの道へ進むことを決めました。自分なりの答えがバイオマスエタノールだったので、その研究ができる大学院に進みました。大学院といっても公益財団法人で研究していたのですが。

バイオマスを使ったモノづくりができる優秀な研究者は他にもいるので、自分は商品そのものに関わるより、商品を作る仕組み・システムを作りたいと考えてエネルギー企業に入りました。

- ✓ **自分の目標達成だけでは満足できない。周りの人が喜んでくれることで満足を得られる。**

「人のため」を掘り下げていくと、自分が満足したいから。自分の目標を達成しただけでは満足できず、それに対して周りの人が喜んでくれることを望んでいます。環境問題やチャリティはそれをして嬉しい人しかいない。そういうことを言っている自分ではなくてはいけないと思っています。大金持ちになりたいということがモチベーションの人はそれでいいと思っています。でも、自分はそういうことがモチベーションにはならない。

人を嫌いになるのが苦手です。神のようにになりたいと思っています。もちろん愚痴や悪口も言いますが、人を本質から嫌いになることはありません。

- ✓ **まずは、この分野に関して、高い専門性があり、発信力のある人というポジションを築きたい。**

企業に入ったのは専門性をもって、仕組みづくりに関わりたかったから。その分野でしっかり専門性をもって、この分野のことはこの人に聞けばいい、この人の意見なら間違いないという発信力をもった上で、仕組みづくりに携わりたいと思っています。就職の選択肢として官公庁もありましたが、そこだと専門性を極めるのは難しい。大学に残って偉くなればモノづくりはできるかもしれないが、自分がやりたいのはモノづくりではなく、仕組みづくり。世の中とダイレクトに繋がれるのは会社でした。会社に入って、やりたいことをやる為にはどういふステップで進むかというルートが明確になりました。

社会の中でどう見られたいかという、この分野にはこの人だ、この人の言うことなら納得できるというレベルの専門性のある人になりたい。その上で、今こうすべきだと議論できる立場でいたい。全体の中で合理性のある結論を導くのに役立っている人と見られたい。根拠をもって判断できるようになりたいと思っています。

そのために、今は自分の専門性を磨くこと、自分の考えが伝わるコミュニケーション方法を身に付けること、周りの意見を聞いて根拠をもった判断ができるようになることを心掛けています。

- ✓ **将来的には教育やチャリティに関わりたい。人の幸せにつながることから。**

教育にも興味がありました。世の中のためになることだから。子どもたちの持ち味を伸ばしてあげられます。

でも、自分が若いうちは何かを生み出す側でいたいと思っています。30代から40代まで第一線でやりたい。それからは教育やチャリティに関わりたい。恵まれない子どもや災害で苦しんでいる人のインフラを整えたり、可能性を広げたりしたいと思っています。

✓ **今の職場が自分の目標にとって最善なのかは疑問。やりたいことのためなら、海外で仕事をするということにも躊躇はない。**

転職は日ごろから考えています。自分のやりたいことができるかが基準。**自分のやりたいことの為の最善策が今の会社にいることなのかはわからない。**コンサル、リサーチ会社などがどういう影響力をもっているか、可能性を調べています。

今の充足度は10点満点で6点。足りない4点分は、**やりたいことの最短距離にいるかという点がバツ**、仕事のオンオフがはっきりしないので仕事がしっかり達成できていない、自分の個人的スキル(英語、技術分野など)が努力はしているが求めるレベルに足りていない、その3つ。

海外で仕事をする 것도 選択肢のひとつ。ヨーロッパのほうが環境問題の実用化については進んでいます。そういったことが学べる環境にいきたい。やりたいことをやるのに最適ならば海外に行きます。

✓ **世の中に幅広く興味を持ち、とにかく考える。そのためにも、ひとりでいる時間は大切。**

家で一人でいる時間が重要。居心地がいいです。自分ひとりで情報を得たり、自分だけの世界に没頭できます。リラックスできる時間。緊張と弛緩といううか。**家にいる時は人から受け取った情報、刺激を整理する時間**でもあるのです。休日はひとりの時間が50%を占めます。これ以上減ると難しいと感じます。

物事を良く知っておくことが必要だと考えています。研究したことを世に出すために、**世の中のことに興味をもて**と言われていています。雑談していても、その人がどれ位根拠もっているか透けて見えてしまうと思います。

そのために、**考える習慣をつけるようにしています。**車を見たらこうしたら燃費が削れるのではないかとか、ビルの窓ガラスをみて反射を抑えればエコになるのではないかとか、街中のすべてが題材になります。結構きついです。こういう研究を始めてからついた習慣です。

ケースB(男性27才)

■プロフィール

- ・長野県出身。小学1年生から高校まで野球一筋。
- ・大学の薬学部(4年制コース)を卒業後、広告会社に入社しマーケティング部門に所属。
- ・2019年に広告会社グループ内新規事業の起業に参画し、地域の事業に関わる。
- ・現在は、地域と企業を結ぶ新しい取り組みに向けて活動中。

✓モノを360度どの角度で見ることができるか？物事の多面性を捉える力を高めたい。

大学3年生の時に、コーヒーが持つ予防効果を専門とする研究室に入りました。そこで、**見る角度を変えると新しい価値を見つけられるということに気づき、これは面白い**と思いました。ここでモノの見方が学べました。モノの陰にある何かを見つけたいと思ったのです。

さらに、就活の時に、360度違った見え方があることを知りました。OB訪問で広告会社の人100人位に会いましたが、皆違うことを言うのです。それ位物事は多面的だと気づきました。**人と違う見方ができる人間になりたい**と思うようになりました。そこに自分の価値を作りたいと思っています。

モノを360度どの角度で見ることができるか。いろいろ経験してきている人のほうが、見ることのできる角度が多い。だから経験は多いほうがいい。自分の野球部の経験も薬学部の経験も無駄になっていないと思っています。

✓広告会社のマーケを経験し、エンドユーザー(=人)の気持ちを読み解くことの重要性に気付いた。

大学3年の時にバイト先の居酒屋で電通の存在を知りました。広告会社はCMばかりでなく、マーケティングカンパニーと謳っている。大学3年の秋にいろいろな企業でインターンを経験し、広告会社のマーケに絞っていきました。広告会社に入れば、新しい価値の発見から発信までできると思い、広告会社のマーケ部門を志望しました。

大学が薬学部で文系就職の前例がなく、就活は大変でした。電通85人、博報堂10人など100人位にOB訪問をしました。100人中60人位は面白いことをやっている印象でした。

広告会社では、マーケとしてエンドユーザー=人の気持ちを握ること、そして伝えることを学びました。人の気持ちを捉えることの重要性に気付いたのは、(新規事業で)自分でサービスを作ったことが大きいです。売れると思ったものが売れないという壁にぶつかり、**受け手の気持ちかわからないとダメだと気づきました**。メーカーは“モノ”のマーケティングのプロ、広告会社は“人”のマーケティングのプロだと思う。そこに広告会社の存在意義があると考えています。人をどのように読み解くかというところで、自分らしきを出すことができると考えています。

✓ “地域”の持続可能性をつくることに挑戦したい。“地域のため”を考えていることに自信がある。

今は地方の仕事に関わることにマインドの舵を切っています。

今のビジョン(やりたいこと)は地域の持続可能性をどうつくれるかに挑戦することです。このままだと地域は消えてゆくだけ。地域の価値を消さずに、持続可能な地域をひとつでも増やすためにどんなチャレンジができるか。

その奥には、ふるさとと呼べる地域を増やしていきたいという気持ちがあります。地域に行ってみるとそこが本当に好きな場所になるのです。東京に戻る時に、「行ってきます」と言えるような場所がある。それは自分のエゴで、地域経済を回すというようなきれいな話ではないのですが、そんなふるさとと呼べる場所が増えることで、僕の人生の色が豊かになった。それを社会に知ってほしいと思っています。

“地域のため”“ドメスティックな社会のため”を考えていることには自信があります。そういうバックビジョンがないとやりたいことは続かない。サービスを作ったときに、“～たい”がないともたないということを経験しました。バックビジョンとブレていないかを考えます。

✓ 今のゴールは、行政と連携して“地域”を良くしていく領域で、秀でた有識者というポジションを確立すること。

ゴールに向けて効率よく進めていきたいタイプです。いつもゴールを据えておきたいと思っています。時間の枠が埋まらないのは嫌だし、無駄なことはしたくない。一秒でも無駄にしたいと思っています。

今のゴール(コンセプト)は、行政と一緒に地域を良くしていくというマーケットの中で、きちんと認められた有識者になることです。この人の仕事はすごい、結果を出している、課題を解決しているというような存在になりたいと考えています。

✓ これまでの経験を無駄なく生かせば、自分はオンリーワンになれるはず。

まず薬学部で精緻な積み上げというロジックを学びました。これは行政に伝わりやすい考え方に通じます。次に代理店でマーケとしてエンドユーザー、人の気持ちを握ること、そして、伝えることを学びました。さらに、起業をとおして、起案して実現、推進することを学びました。

自分は(長野県出身なので)田舎のリアルを知っているというベースがあるし、この3つの掛け合わせで、各ピースがはまると、地方再生でオンリーワンになれると考えています。自分というブランドができるのではないかと考えています。

✓ 今後は複数の仕事を並行して進めていくことを想定。ジョブポートフォリオをどう組むか。

今後の仕事の進め方は3本を軸に考えています。平行な働き方をしようと思っています。ひとつは地域に関わる仕事です。現状も行政から声がかかっています。ふたつめは自分がやりたいサービスのある会社に属することです。そこでサービスの運営や伸ばすことを経験したいと思っています。3つ目は大学の研究室に属することです。そこでは地域ブランドづくりを研究しようと思っています。

自分のジョブポートフォリオをどう組むか。いいとこどりをしたい。なりたい自分になるために、上を目指す人は一か所で満足できないことも多くなってきているのではないかと思います。それと3つ仕事をもっておけば、ひとつがうまくいかなかったときに、バランスがとりやすいという面もあると思います。

(今の会社を辞めても)生活自体は心配していません。地域に関わる仕事だけで今の収入の60%は稼げますし、ふたつめが加われば十分です。

✓ コミュニケーションのツボは、面白い奴として受け入れてもらうこと、思っていることをどう伝えるかを工夫すること。

小学校・中学校と優等生で生徒会長をやっていました。高校では野球部のキャプテン。高校は野球部が真ん中にいて、野球部がロールモデルのような学校でした。

こんな風にキャリアはまっすぐなのですが、中身はひねくれている部分があります。目立ちたいというのがあります。両親共働きで、一人っ子で、おばあちゃん子ということがその背景にあるかもしれません。家には兄弟も他の人もいない。だから、友人に受け入れてもらわないと居場所がなくなってしまうのです。友人に嫌われないようにと、もっと頭のいい人は別にいるので視点をずらして、目立つようなことをして面白い奴として受け入れてもらおうとする。生きている証として爪痕を残したいという気持ちもあります。

人にどう伝えるかは、一人っ子で友人を作らなくてはならないという境遇の中で身に付いたのだと思います。嫌われたくない、どう伝えたら楽しく遊べるかを考えてきた。思っていることをそのまま伝えれば、人はイヤな気持ちになる。どう伝えるか、HOW TO SAYをずっと気にしています。

✓ 拠点として東京は外せない。プラスアルファで地方にも拠点をもちたい。

東京プラスアルファで拠点をもちたいと思っています。地方は、地元の長野でもいい。全国の仕事をしているとアクセスの面で東京が便利。東京は地方に比べて流れが速いし、東京に拠点をもちことは人脈という点でも大事。簡単に声が掛けてもらえる距離にいたほうがいい。地方にだけいたら、存在を忘れられそうという不安があります。

ケースC(男性28才)

■プロフィール

- ・東京都出身。
- ・大学では歴史や文学を学んだ。
- ・新聞社に入社し5年目。入社当初は金融政策を担当。
- ・2019年から福岡に赴任。記者として地域経済面を担当している。

✓ 周りの期待を担って就職。仕事と自分の相性に悩みつつ、仕事との距離を詰めているところ。

就職後に他の選択肢をあったのではないかと何度も後悔しました。特に1~2年目は激務で追い詰められてそう思ったことも度々です。自分は報道に向いていないのではないかとも思っています。就活時にもっと真剣に考えればよかったと思う。**周りの期待を気にせず、もっと自分のことを考えれば良かった**と思います。

記者にも求められるものは、やさしさと共感。記者は出来、不出来が如実にわかってしまいます。やさしさはどんな仕事にも求められると思います。記者の場合のやさしさとは、例えばコロナで仕事を失った人や家族を失った人の話を聞かなくてはならないのですが、この人になら自分の気持ちを聞いてもらいたい、話をしたいと思ってもらうこと。そうでなければ、決してニュースやいいコメントも取れません。読者に今こんなことになっていると伝えることができません。

自分が伝えなかったら誰も知らなかったことを伝えたい。他の人が伝えなくても自分は伝えようと思う。**外面的な評価はなくてもやりがいがある。**

✓ 無難な道を生きるという選択をした。民芸の世界に触れていると、その満たされない気持ちから解放される。

民芸運動に共感しています。民芸品を買ったり、産地に行ったりします。特に柳宗悦にはまっています。民芸と接していると、自意識から逃れられるというか、自我から解放されます。社会との関わりの中で、満たされない自分がいるのだと思います。**うまく表現する方向が見つからず、外に出せない自分がいる。そういう孤独があります。**美しいものと接していると、自意識から逃れて、自分の心が広がる気がするのです。

本当は絵を描きたかったのですが、アート系には進みませんでした。何となくやめてしまいました。アート系にいきたいという気持ちを抑えたのだと思います。**表現者では食べていけない、無理して勉強しておいたほうが“為になる”**とどこかで判断したのです。そのほうが、家族との軋轢もなく、人生として生きやすいと思ったのです。高校時代の留学を境に、勉強をして仕事に就いて、**小さな社会で生きていったほうが良い**と思うようになりました。

今更、アートには進もうとは思いませんが、**その満たされない気持ちが民芸品や骨董に駆り立てている**のかなと思います。

✓ **環境問題、行き過ぎた資本主義・・・今は時代の変わり目。自分も行動するつもりだが、より若い世代に期待している。**

何が良くて何が悪いが画一的になってきていると思います。いろいろな分野、世界中で起きていることです。お金があれば良くて、ないのは良くないというような。格差社会やグローバリズムが進んでいます。何が美しいか、科学的に何が正しいか、などお金以外のベクトルが弱まっていると感じます。それで、人が生きやすくなっているかという、人が生きにくくなってきている。不安や不満、孤独を引き起こしています。**経済的なベクトル以外の価値観があればいい**のですが、宗教や哲学、文学などの力が落ちている。そういうことがあちこちで表れていると感じます。

時代が変わることを期待しています。 完全には絶望はしていません。より若い世代は、**環境問題や市場原理主義、行き過ぎた資本主義**が突き進むことで、**人のマインドや文化、地球環境自体をダメにした**と感じています。抜本的に考えや生活を変える動きが出てきています。そういった若い世代の新しい動きに期待しています。

今の時代、ドラスティックな変化が必要で、公私を問わず、**自分も変化に向けて行動していきたい**と思っています。

✓ **“画一的に”ではなく、その地域の固有性を大事にしながら、地域で活動する若者たちがいる。こういう若者たちを支えていくしか地方再生の道はない。**

若い人の可能性ということ言えば、**過疎地で活動している若い人がいます。** 過疎地に行って、自分で小さいお店を始めて廃れた商店街を活性化したり、限界集落を支えている人たちがいます。これからは**「より小さく考える、やさしく考える、多様性を受け入れる、ここにしかない固有のものを考える」**ことが大事になってくると考えています。今までの**経済的な動きとは違い、ここにしかないものを大切にして変わろうとする動きが出てきています。** バーニーズニューヨークを福岡にもオープンして、人を集めてイベントをやったりTV局を呼んだりするというのではないのです。そういうことをすれば、地元の商店街が過疎化するということが起きるだけです。

これまでのやり方の象徴的なものがオリンピックだと思います。金太郎飴のようにどこでやっても同じものを見せられるだけ。巨大な無駄だと感じます。

地域おこしの可能性はあると思っています。今後の地域再生や日本の生産性向上に対して、大企業のトップやエコノミストは答えをもっていません。10年前に立ち直るチャンスがあったが、その10年間を無為に過ごしてしまった。だから、今やっていることを続けていくしかないのです。でも、これまでのやり方からは変わらないとならない。トリクルダウンが起きなければ、地域再生は上からお金を配ってもダメで、**地方の有志の若者を下からどんどん支えていくしかない**と思います。

今後は何とか頑張って地域おこしの動きをしている地域と、一方でなくなっていく地域が出てくると思います。福岡は、東京より危機感が強く、その分**福岡は可能性が残されている**と思います。

✓ 人と関わりあっていても孤独を感じる。生き方の本質的なことを話し合える場がほしい。

これからは、仕事以外で社会と関われるチャンネルを作りたいと思っています。モノを書くでもボランティアでもなんでもいい。相互コミュニケーションをしたい。**人と本音で話をしたいという根源的な思い**。僕はどんな人でも政治的な存在で社会との繋がりをもっていると思っていたのですが、大学を出て社会に出ると仕事の話しかしかないんだと実感しています。自分はこう思うと話しても通じない。例えば、社会についてどう思うか、コロナ後の世界がどうなるかなど、周りは関心をもっていない。政治や環境問題、社会とどう関わっていけばいいかなどについて話をする場が欲しい。

今の生活は80点。これ以上求めたら贅沢だと思う。

マイナス20点は**孤独を感じている点**。**侃々諤々話をするのがない**。心を開いてコミュニケーションすることがない。

✓ 自分のやりたいこと、思っていることを、社会の中でうまく発信していけない苦労がある。

大学時代や高校時代の友人たちも苦労しています。大学を卒業して、**理想をもって社会を良くするために社会人になったのに何をしているんだ**、もっと活躍できるはずだったのにこんな所で何をしているんだと思っています。**自分の思っていることを社会の中で言えない**のです。

✓ 仕事が自分の居場所と言えるようになればいいなと思う。やりがい、仕事の意義、自分のスキルのハザマで逡巡。

自分の居場所はあると感じています。仲のいい友達が数人いるし、彼女もいる。自分には無条件で受け入れてくれるところがあります。自分がどんな仕事をしていようが、どんな評価を受けていようが関係ない。

やりたいこととやっていることが重なるといいなと思っています。そうすると**そこが自分の居場所になる**のかなとも思います。**現状は仕事と願望が一致していません**。一致することがあるのかなとも思い始めています。仕事だからやるんだということに納得する部分もあります。

仕事と願望が一致しないのは、やはり“やりがい”という面。記者は当事者になれないというジレンマがあります。目の前に困っている人がいても、記者は傍観者でいるしかない。そういう局面で記者として役に立つためには、相当なスキルが必要で、自分にはまだうまく表現する能力がないのだと思います。

でも、弱い立場の人、困難の中にいる人、社会を変えようとしている人の記事を書くことの意義は大きいとも考えています。

ケースD(男性27才)

■プロフィール

- ・静岡県出身。
- ・商学部で修士課程まで学ぶ。専門分野は消費者行動学。
- ・外資系ソフトウェア会社に入社。
ソフトの導入や使い方についてコンサルテーションをしている。

- ✓ **小さい時から、“従順であること”に対して反抗心があった。理由や必要性が納得できないことには反抗してきた。**

小さいときから反抗心が強かったです。**従順であることには対して反抗心**がありました。小学校1年生の時は不登校。学校では自分がわかっていることしか学べないからという理由。皆で座って授業を受けることができなかった。**ちゃんと説明されていないことはできない**タイプ。小学2~3年のころには少しずつ学校に行くようになっていました。学校から帰ってきた友達とはいっぱい遊んでいたの、人との接触がイヤなわけではないのです。小4以降、新しく学べるようになるようになって、学校に馴染めるようになりました。いろいろ知りたいタイプなので、新しく学べるようになるようになって学校が楽しくなったのです。中学校は楽しかったし、学ぶ楽しさは知っています。

あれやれ、これやれではなく、何で必要なのか教えてほしいと思ってしまう。**理由が納得できなければやらない**。いちいち「何で？」と理由を先生に聞く子どもでした。何で体操着を着るの？何で給食着を着るの？というふうに。

- ✓ **日本企業では素直であることしか求められない。自分を主張できる何かを身に付けないと、自分として生きられない。**

大学4年の就活が大学院に進むきっかけになりました。就活の過程で会社のコマになるしかないということがわかってしまったのです。自分として生きられない感じがしたのです。会社からは**素直であることしか求められない**ということを感じました。僕は**会社のために働くとか、会社のために尽くすとかできない**と感じました。何か違うと感じたのです。結局、最終面接ですべて落とされました。それなら、**自分を主張できる位の何かを身に付けないといけない**と考えて、大学院に進みました。

修士後の就活では、**日本の大きい企業を受けても意味がない**と思い、外資、ベンチャー中心に受けました。受けた3社で「5年でやめます」と言って就活しました。それを受け入れてくれて、役員が一番会話をしてくれたのが、今の会社です。

✓ **今の仕事は知り尽くした感がある。新しい学びがない。
転職するか、新たな関心領域を学ぶことに注力するか。**

今の満足度は65~70点。足りない部分は、**仕事に飽きてきて、新しく学ぶことがなくなった**点。仕事が見えてきて、困ることがなくなりました。仕事を単調に感じ、新しく知ることがなくなりました。

ここ最近、仕事のフェーズが変わったということもあります。以前は上流工程で、今はシステムに落とし込むフェーズ。知っていることばかり。単調作業ほど単価が低く、生む価値の量が少ない。最近やっていることはそこに甘んじているのです。自分をもっと考える仕事をしたい。**新しく知ることがないのが面白くない**。もうちょっと考えたいし、自分をもっと考えることができると思っています。

仕事自体、自分レベルには大きなことをやらせてもらっているのですが、**社会への影響範囲が狭い**と思う。ITシステムを作ることが、相当落とし込まれたことだから、仕事としては面白くない。

今後については、ひとつの選択肢は転職。もうひとつは、仕事を早く終わらせて、夜の時間を有意義に使うか。これまでまったく知らなかった**ITは知ることができたので、これからは組織論や社会の仕組み、経済を学びたい**と思っています。

✓ **今のところ目指すところがない。だが、人生の落としどころは地元の静岡でと考えている。**

今は目指すところがなくて困っています。小学校のサッカー選手になりたいから止まっています。それ以降、明確にこうなりたいというのがありません。

40才過ぎたら、地元の静岡に帰ることを考えます。地元は、友だちなのか、町なのかわからないけれど、特別な場所。**自分の人生の落としどころ**。地元に戻元したいと思っています。地元には、自然があって、遊んでいた記憶や楽しかった記憶があります。

✓ **生活する分位は何とでもなるという自信はある。経済的成功には興味はないが、そこを外れた人とは見られたくない。**

お金はあったほうがいいですが、**苦しい思いまでして稼ごうとは思いません**。お金に関しては**生きていく分は何とかなる**と思っています。仕事にしても、困ったら地元の銀行が拾ってくれます。それにどこかに自分と同じ感覚の人がいるはずだと思っています。生活していくのは、贅沢しなければどうにでもなると思っています。

経済的成功には興味がありません。でも、そこから**外れると逃げていると思われるのがイヤ**です。周りの目を気にしている自分があります。今はまだビジネスの世界から外れるのはどうかと思っています。

社会的な安定を求めているとは思いますが。大企業に入っているわけだし。

ちょっと考察・・・

4人の若者にインタビューしてみて、彼らに通底するマインドがあることを感じた。もちろん、個々で仕事の内容や取り組み姿勢は異なるのだが。

そこで尖った彼らに通底する仕事マインドを浮き彫りにしてみた。

自分が仕事をする事で何を成しえるのか？

〈仕事することの意義を“社会”をベースに考えている〉

- 人や社会の役に立ちたいと思っているし、そうでないと彼らは満足できない。
- 領域は、環境問題の解決、地域再生、人に伝えること、ITなど様々にわたっているが共通の思いがある。

自分のやりたいことのために会社はある・・・

〈会社のために仕事をしようとは考えていない〉

- やりたいことの実現のために、よりよい環境を求めて転職や起業も考える。
- やりたいことの実現のために、並行して複数の仕事をする事(ポートフォリオワーカー)を目指す。
- 自分の主張を通すことを優先し、会社に対して従順であろうとは思わない。
- だから、今属している会社での出世には、あまり興味がない。

自分のやりたいことを貫くためには、秀でた力が必要だと考えている。

〈まずは、自分のスキルをきっちり確立しようとしている〉

- 自分のやりたい領域の中で、影響力や発信力をもつためには、土台となるスキルが必要と考え、今はスキルを着々と蓄えている。
- 仕事をしていく上で、忖度や従順であることを避けるためには、揺るがない実力をもつことが必要と考えている。

《次ページへ続く》

そもそも考えるし、意識して考えようとする。

〈考える力、発見する力が鍛えられている〉

- 普段から物事をよく考える、人によっては子どものころからよく考えている。
- いろいろなことに興味や関心をもち、幅広く考えようとしている。
- 視点をずらして、自分なりの見方、考え方をしようとしている。

これまでの社会ではダメだ…

〈時代の変わり目であることを認識している〉

- 環境問題、地域の問題、行き過ぎた資本主義など、今のままでは立ち行かなくなると考えている。
- だから、彼らの関心領域は環境問題や地域再生へと向かっている。

お金をたくさん稼ぎたい、裕福な暮らしをしたいとは思っていない。

〈自分の生活には、多くを求めない〉

- 自分の生活を維持していくことには自信があるし、何とかなると思っている。
- 彼らの関心はお金にはない。
- ベースの生活は維持しつつ、自分のやりたいことに注力したいと思っている。

インタビューした4人とも大変に活躍している。だが、仕事で自分の確固たる居場所を見つけている人と、いまだ見つけていない人に分かれる。

前向きな気持ちや能力を持ち合わせていても、必ずしも居場所が見つかるわけではない。そういう彼らは、先行きに迷ったり、孤独を感じたりしている。

大きなパワーをもった彼らの居場所が見つからないのは、社会にとっても大きな損失だ。彼らが自分の居場所を切り拓くことを願うとともに、彼らが力を発揮できるような居場所を作るのは“大人たち”の役割だと考える。